

わずか5カ月間で
デジタル化を達成

竹延さんは、次のような開発・運用スケジュールを考えていた。

9月＝仮運用開始↓11月＝本運用開始。本運用開始後職人が使い方を習得して、19年3月に入社する技能実習生に使い方を教える。開発に使える期間が5カ月

と限られていたので、費用が圧倒的に安く開発期間が短いセールスフォース・ドットコムを選んだ。毎日のように仕様を打ち合わせして完成形に近づけていき11月、予定通り「コネキヤリ」を職人のスマホに導入し、運用を開始した。「コネキヤリ」はベトナム語にも対応させたので、日本語の読み書きができない技能実習生でも使いこなせる。

コネキヤリ導入で
事務部門の生産性が向上

コネキヤリ導入後、事務部門の月間作業時間は37時間20分から24時間40分へと34%削減された。

い人にはマン・ツ・マンで教えた。「IT導入には、やり抜くという経営者の強い意志と職人への粘り強い支援が欠かせない」と考えていたからだ。

い人にはマン・

されて外販の依頼が増加した。

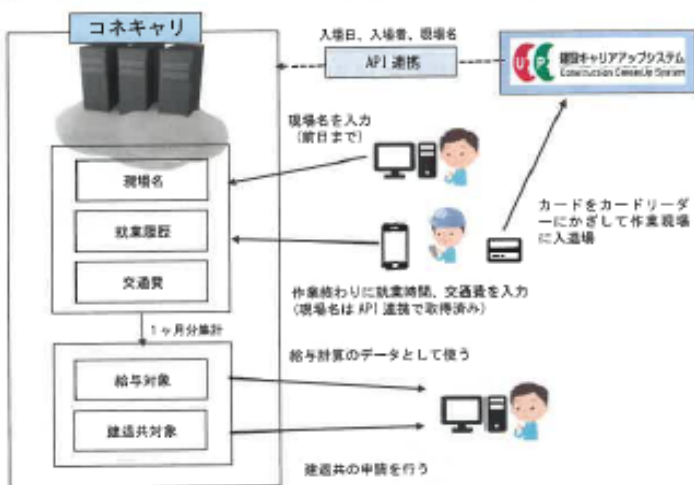
竹延さんは、業界に資する生産性向上の取り組みを、自身が創業したKMユナイテッド（竹延の関連会社）でも行っている。例えば「建設アシスタント」という派遣業務。ITスキルを持った人材（アシスタント）が書類作成や工事写真整理、CAD（コンピューター支援設計）作業などを代行することで、多忙な現場監督は現場業務に集中できるようになる。

IT化が遅れている業界だから

また、建設業退職金共済証紙申請手続きの作業は勤怠情報から書類が自動作成されるため、その時間は34時間から18時間へと47%も削減された。人件費も年間約100万円の削減効果が得られた。さらに経営陣が職人の適正配置や労務管理にも役立てることができ、その成果が他社にも評価されて外販の依頼が増加した。

コネキヤリ利用イメージ図

コネキャリアに入力された内容の真正性は、国土交通省の「建設キャリアアップシステム（CCUS）」（システムに職人個人の就業履歴や保有資格等を蓄積しキャリアアップに活用する仕組み）のデータと突き合わせることで担保できる



スマホのアプリになった「出園」。現場名は検索候補から選択。交通費はNAVITIMEで自動計算される。



コネキヤリにより経営陣はどのレベルの職人がどの現場に配置されているのかが即座にわかるようになった

社名	株式会社竹筵（たけのべ）
所在地	大阪府大阪市都島区都島北通1丁目2番12号
電話	06-6921-2692
代表者	竹筵孝雄 代表取締役社長
従業員	88人

HPはこちら

